

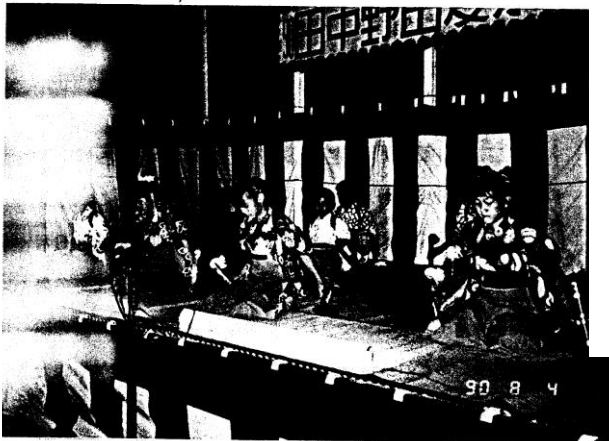
夏祭りに参加して

6年生 矢倉 恵介

暑く楽しかった夏休みもあっという間に終わってしまいました。その夏休みの中で一番楽しかったのは、田中野田の夏祭りです。今年ばくち六年生にとっては最後の夏祭りでした。だから、おおいに楽しもうと思いました。

昨年から祭り太鼓をするようになって今年もすることになりました。太鼓の練習は毎日夜七時から九時まで福祉センターの体育館でしました。練習が一週間しかできなかったの、できかどうか心配でしたがみんなで一生懸命取組ました。

その結果、満足のいく太鼓ができてよかったです。



6年生 原 和美

私達は、田中野田の夏祭りで銭太鼓をすることになりました。毎週土曜日の五時から六時までの一時間の練習だけれど、夏祭りまで四日間の練習でした。私は最初、四日間の練習だけでできるのだろうかと思いました。最後の辺にとっても難しい所があってみんな、うまくできませんでした。三日目の練習からは、音楽をかけてやったので早すぎてうまくできなかったけれど終わりの方にはみんなそろってできるようになりました。最後の練習の日には、難しかったところを、うまく

できるように、練習しました。

夏祭りの日には、銭太鼓が始まるまでみんなドキドキしていました。一回目は緊張して最後がいませんでした。二回目は、大人の人といっしょにしてうまくできたと思いました。私達にとってとても楽しい思い出になりました。

裏辻 太(6組)

町内の夏祭りが田中野田グランドで8月4日「明るい町・楽しい町」のテーマで行われ、私も照明係として参加をさせていただきました。

居住して5年目で始めて夏祭りに参加し、まだ顔のわからない人の多い中、周囲の皆様方にはいろいろ気を配っていただきました。

事前の打ち合わせ通りうまくいかないこともありましたが、私としては、一段高い所から舞台にスポットを照らし、出演者の熱演がよく見える特別席という気持ちで・・・。

まわりを見渡すと、数々の夜店があり、夏祭りの雰囲気作りがなされ、町内の方々が大勢参加されているのには驚きました。

祭りのしめくくりは、子供たちと共に、大きな輪で「燃える岡山音頭・炭抗節」などの盆踊りをし、花火とともに楽しかった夏祭りは幕をとじるのです。



原 和美さん宅の「くすのき」



わが郷土を語る (その12)

中尾 佐之吉

田中野田の巨木と古木

田中野田に、巨木や古い木があるのかと思われるかも知れない。実際、ある面では残念ながらそのとおりである。ただ過去には大きな樹があったし、いまもわずかではあるが、残存しているのである。

私の家には戦前、2抱えくらいの大きな松があって「田中野田の大松(おおまつ)」として近郷に知られていたし、「おおまつ」は私の家の代名詞になっていたのである。田中野田のシンボルの、この老松(当時300年以上の樹齢であった。)は「松喰むし」のため、終戦の翌年枯死してしまった。また私の家ばかりでなく、中尾昭義さん中尾マツ子さん宅などにも、1抱え以上の大きな松があったが同様の運命にあった。残念なことである。

松の木以外で注目される樹は榎(えのき)である。

2年前原 好幸さん宅の裏の古い屋敷の「いぬい」の隅にあった幹周り2.49mの大きな榎が、根元から2mのところで折れて枯れてしまった。私の家にも目通りの幹周り1.43mの榎が屋敷の西北(いぬい)にある。「えのき」は通例またヨノキとも呼ばれるそうである。おそらく「嘉樹」すなわちめでたい木を意味したものと思う。

民俗学者一柳田國男の著書によると、人家の邸内にこの木を植えるという風習は中部日本の広い地域に行われ、名古屋近傍ではその場所は必ず屋敷の【戌亥】の隅であると書かれている。

屋敷の四隅の中では乾が最も大切なところとされるのであろう。この地方にも同じような風習があったわけである。「えのき」の根本には私の家でも「ほこら」があり、地主さまとして祭っている。「えのき」は他の古い家にもあったのであろうか、いまは見当たらない。

田中野田で現存の大きな樹と言えば他に原 淑美さん宅の樟の木であろうか。幹周りは1.49mである。

岡山市内にも大きな樹があったが空襲をうけて焼失し、近郷の大きな松なども松喰むしにやられて、見えなくなってしまった。

屋敷に榎を植えたり街道の一里塚に榎や松を植えたのは、木の生い繁るようにその家の繁栄を願い、道ゆく人の安全を願うることと考える。昔の人の信仰のあらわれであろう。そうは言っても木もなかなか大きくなるものではない。

人と同じように100年以上を生きた老木を大事にしたいものである。

編集後記

台風19号が大事にならずやれやれと思ったのに、20号21号が矢つぎ早にくる。10月は行事の多い季節である。一日も早い天候の回復を祈りながら編集を終えた。発行に当たって多くの方の寄稿やご援助を感謝します。